

# 平成 30 年度基本施策の達成状況評価

## 1 基本施策 1：市民活動の裾野の拡大

### 1-1. 市民活動のきっかけづくり

### 1-2. 多様な活動につながる情報の提供

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

市民活動のきっかけづくりとなる事業は多く行われており、その情報が興味・関心を持っている市民に届くように市報以外に SNS 等も活用している。

可能な限り、施策に関連のある事業の PR 協力をしていきたい。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

・ SNS が普及し、様々な方面からイベントのアプローチが可能になった。SNS から情報を受け取れる人、逆に SNS からの収集を苦手としている人がいることも考慮する必要がある。

・ 情報を誰に、どのように伝えたら効果があるかという講座があつたらよい。

・ 口コミによる効果は大きいと思う。

## 2 基本施策 2：市民活動の促進と自律・自立に向けた支援の充実

### 2-1. 情報提供の充実

### 2-2. 相談体制の拡充

### 2-3. 財政的な支援

### 2-4. 市民活動に関する学びの機会の提供【重点施策】

### 2-5. 交流の促進

### 2-6. コーディネート機能の強化【重点施策】

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

様々な情報提供・相談対応が行われている。また、それ以外にも会計や資金調達、組織運営に必要なことなどをテーマにした講座を実施し、市民活動を進める上で発生する様々な課題解決への支援がなされている。

財政的支援及び交流の促進は、現在も支援が行われているが、一方で多様化する資金調達手段への対応等、既存事業の見直しも含めて研究をしていく。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

補助金等、行政が支援した団体等には、効果を報告する場を設けるとよい。報告書を公開にすることも検討してほしい。また、成功事例を集めたイベントをやってみるのはどうか。

### 3 基本施策3：市民活動の場の活用促進

#### 3-1. 武蔵野プレイスの有効活用

#### 3-2. 多様な活動の場の情報提供

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

武蔵野プレイスが実施している市民活動支援事業の参加者数や、その満足度・貢献度等が増加・上昇しており、目標に対して非常に良い結果となっていると思われる。

その他、市内転入者へコミセンの案内リーフレットを配布したり、コミュニティ協議会が行っているイベント情報を市が発信しているフェイスブック等で広報している。毎年のコミセン利用者数に大きな変動はないが、人口の約1割が毎年入れ替わる本市の特徴を勘案すると、利用者の維持、または、増加するためにも引き続き、施設案内やイベント広報等を行っていく予定である。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

- ・地域には多くの高齢者が住んでいるが、まだコミセンに来ていない人もいる。地域のたまり場となるようにしていきたい。
- ・成蹊大学にはたまり場（ボランティアセンター等）があり、そこにコーディネーターがいる。
- ・居心地の良さがあっていいと思う。ちょっとした食事や音楽を提供するなど。

### 4 基本施策4：課題解決のための「連携と協働」の推進

#### 4-1. 連携と協働に向けたネットワークの構築

#### 4-2. 連携と協働に向けた庁内体制の構築

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

施策に関連のある事業は多く行われている。

様々な目的のために活動している団体・個人が集まり、地域の課題等について協議をする地域フォーラム等も各地で開催されている。

武蔵野プレイスが実施しているコミュニティマーケットでは、武蔵境活性化委員会も参加しており、企業との連携も行われている。

地域で活動している市民活動団体等の情報をインターネットや冊子にまとめて閲覧するといった取り組みもされており、引き続き、情報発信を行っていく。

コミュニティ未来塾むさしのを開催し、市職員も研修として参加。地域の情報や課題を、市民と行政が相互に学ぶことができている。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

コミセンが溜まり場になっていたり、武蔵野プレイスで様々な人がいたりすると、そこに関係している人は情報がもらえる。地域の繋がりができていると、ニーズを具体化できるということかもしれない。